

小くしま農業女子ネットワーク 農女びより



25



ご先祖さまと大自然に感謝して
こメ作りに励む佐藤さん

▶ふくしま農業女子ネットワーク(愛称:百笑一姫♡Fukuがある)メンバーの思いや農作物、ネットワークの活動状況、イベント情報などをホームページで発信しています。

参加メンバーや応援団となる企業・団体も応募も受け付けています。URLはhttps://www.fuku-girl.jp/ 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024 (521) 7340へ。



さとう 佐藤

あきこ 昭子さん (西会津町)

農業は「生命産業」

脱サラして、夫の故郷西会津町で農業、田舎暮らしを始めました。45歳で農業女子となり、早いもので16年がたちます。

初めての農業はキノコのハウス栽培でした。その後キクラゲ栽培も始め、農業経営の正しさを示す国産認証JGAPを、県内で初めてシイタケで取得しました。2010年12月には海外のホテルとの商談も成立し、生産規模を4倍にして準備していました。

ところが、翌年3月、東日本大震災による原発事故の影響で、取引先からのキャンセルが続出しました。風評被害により売上げは10%未満に激減。さらに、群馬県から仕入れ

た菌床からもセシウムが検出され、シイタケの生産を中止せざるを得ない事態に…。幸い、コメからは放射性物質が検出されることはなく、震災後はコメ農家として被災地にできることを考えました。「米と水のプロジェクト」を立ち上げ、おかゆの缶詰を作り、1方側を災害弱者のいる病院や老人ホームに届けました。炊き出しを食べられない方のお役に立て、コメ農家をしていて本当に良かったと思いました。

つづいて、生きることは食べることに感じます。さらに、「農業は生命産業」と気付きました。約400年前にご先祖さまが開墾してくださった田んぼだけは、なんとか子

孫のためにも続けなくてはと夫と話し合っています。現在、コメを原料とした本みりんや、イタヤカエテの樹液を使ったメープルサイダーなどの加工品を開発・販売中です。自宅の縁側ではカフェを開業。これからも6次化商品開発をコツコツ&ドンドン取り組みたいと思います。

◆プロフィール◆ 東京都出身。中学校美術教師を経て、2002年に就農。2010年法人化し「株式会社キノコハウス」の代表となる。コシヒカリの栽培や、イタヤカエテの樹液採取を手掛ける。6次化商品も開発し、道の駅や百貨店、直売所、県内のホテルなどへ出荷している。野菜ソムリエや薬草コーディネイター(日本園芸協会)の資格を持つ。